

景観創造事業・創設の勧め 「物見の塔」の建設



従来わが国の景観は、黄金の国ジバングと呼ばれたように、とても美しいものでした。

江戸の末期、大陸や半島の風景や生活実態を見た後、次に、日本に上陸するため瀬戸内を船で進むとき、異邦人は、夢に見るような景観に長旅も心休まったようです。

今日の景観は特別の観光地などを別とすれば、高度経済成長のせい、看板や、高さの違うビルの乱立等で阻害されているように感じます。本来すばらしい景観の場所に電線がクモの巣のように張られたりするのも問題です。それは、私たち日本人が、経済中心の価値観を抱き、自分の住む地域の風景や景観に多少無頓着になって、それらの傾向を助長した面もあるように思います。

最近美しい日本の再生の必要が叫ばれるようになり、たとえば、新しい「国土のグランドデザイン」においてもそれが目標の一つになっています。ただ、その具体策となると、やや心細いのではないのでしょうか。今回の提案は、実際の現場において美しい景観の創造を通して、多くの方々の風景や景観への関心を高めることを狙いとします。

仮に、九州の山を対象に、どの山の姿が最もすばらしいか、アンケートを取ったとしましょう。小生は断然、霧島連山、特に高千穂の峰です。おそらくかなりの方が賛意を表して下さるのではないかと思います。高原町からのスロープ、春、ミヤマキリシマツツジが次第に頂上に向かって咲く、斜面の色合いの美しさは天下一品です。また、宮崎市から、深い山並みを潜り抜け、野尻町の高台に出た所で、突如として眼前に迫る高千穂の峰の雄姿には圧倒されます。都城の大陸的な霧島連山の雄大さもすばらしいものです。また、えびの高原から登った韓国岳からの姿は神々しいほどの美しさです。

そこで、提案は、物見の塔の建設プロジェクトです。

高千穂に限りませんが、景勝地を選んで、特に美しい風景、景観を備えた所には、

- 1．景観名をつける。
- 2．その視点から観光客等がみるための物見台（塔）を設置する。
- 3．〇〇八景と称するなど、同じ山でも数箇所の物見台（塔）を設置し、〇〇めぐりと称して新しい観光の目玉にする。
- 4．景観を阻害するもの（たとえば電線）は除外する。
- 5．桜を植えるなどで、周辺整備を行う。

ただ、この案には、次のような反対意見もあろうと思います。景観は、景色の移ろいの中から各人の主観で最も美しいと思う所を決めればよいのであって、ここ、と視点を決定するのは問題だ…。たしかにそのとおりです。が、小生の意見は、この事業を起こすことによって、多くの方々の中に、景観価値をより鮮明に意識すること、及び「美しい国土」の創造の具体的な作業に着手する、という両輪を整える役目としたいというものです。